

事業所名		放課後の家 伊勢				
		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	○		机や棚の配置を見直し、動線が重ならないように工夫している	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、 職員の配置数は適切であるか。	○		新人職員へのOJTを強化し、支援の質を均一化することで、配置の最適化を図っている。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	○		1日の流れを絵カードやホワイトボードで提示し、活動の順番がわかるようにしている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	○		活動の合間に窓を開けて換気を行い、空気がこもらないようにしている。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	○		過度な刺激を避けるため、視覚刺激の少ないレイアウトにしている。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	○		担当職員だけでなく、日々関わる全職員が児童の様子を共有し、計画の改善案を出せるようにしている。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		いただいた意見をもとに、環境整備や活動内容の見直しなど、実際の改善につなげている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	○		実施した改善内容を掲示や会議で共有し、「意見が反映されている」ことを職員が実感できるようにしている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	○		第三者に自社の取組が理解しやすいように運営時の写真などをふんだんに使って資料を作成している	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	○		研修参加者が内容をまとめて報告し、全員が学びを共有できる仕組みを作っている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	○		児童の実態に基づいた支援プログラムを定期的に作成している	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	○		一人の職員の主観に偏らないよう、日々の記録や写真も活用して客観性を高めている。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	○		児童の最善の利益を中心に据え、支援方針や目標を協議している。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	○		支援の方向性が職員間でズレないよう、疑問点はその場で解消している。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	○		記録は職員間で共有し、支援の方向性を検討する際の重要な資料として活用している。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	○		支援方法が曖昧にならないよう、実際の活動に落とし込んだ内容にしている。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	○		こどもの得意・不得意を踏まえ、無理なく参加できるプログラムをチームで考えている。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	○		毎月の会議で新しいアイデアを検討し、固定化を防いでいる。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	○		活動中の様子を見ながら、柔軟に個別・集団の切り替えを行っている	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	○		突発的なトラブルにも対応できるよう、全員が動ける体制を意識している。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	○		職員全員が意見を出しやすい雰囲気づくりを心がけている。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	○		記録は全職員が確認できるようにし、支援方針のズレが生じないようにしている。	
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	○		半年ごとの計画更新時に、日々の記録を振り返り、こどもの成長や課題を整理している。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	○		活動終了後に「どの基本活動が達成できたか」「次回はどの視点を強化するか」を職員間で確認している。	
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	○		こどもの意思を尊重し、選んだ結果を大切にしている	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	○		会議に参加する職員が、事前にチーム内でこどもの最新の様子や課題を確認している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	○		学校と事業所で支援方針が一致するよう、必要に応じて連絡帳や会議で情報交換している。	
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	○		下校時刻の変更や特別日課など、日々の情報も随時確認し、送迎の遅れや混乱が起きないようにしている。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	○		保護者を通じて、就学前施設の様子や支援内容を確認している	
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	○		こどもが新しい環境にスムーズに適應できるよう、必要な情報を過不足なく伝えている。	
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	○		研修で得た知識を日々の支援に取り入れ、支援の幅を広げている。	
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	○		こどもの特性に配慮しながら、無理のない交流方法を工夫している	
	33	(自立支援) 協議会等へ積極的に参加しているか。	○		協議会を通じて、学校・医療・相談支援・福祉機関などとの連携を強化している。	
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	○		家庭での困りごとや成長の様子を聞き取り、支援内容に活かしている。	
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	○		家庭での取り組みと事業所での支援が連動するよう、必要に応じて個別面談を行っている。	
	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	○		日々の活動内容や支援のねらいを、写真や事例を交えて説明している。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	○		こどもの発達段階や特性を踏まえ、無理のない目標設定を行っている。	
38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	○		保護者がこどもの成長を実感できるよう、写真や事例を交えて説明することもある。		
39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	○		保護者の希望に応じて面談の機会を設け、家庭での困りごとやこどもの様子を詳しく聞き取っている。		

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	○		保護者の声を大切にし、希望があれば新たな交流の場づくりも検討している。	
	41	こどもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、こどもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	○		活動中の様子やこどもの表情・言動から不安や不満を汲み取り、必要に応じて対応している。	
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報をこどもや保護者に対して発信しているか。	○		活動中のこどもの様子を写真や文章で紹介し、家庭でも話題にしやすいよう工夫している。	
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	○		書類は施錠できる場所で保管し、電子データはパスワード管理を徹底している。	
	44	障害のあるこどもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	○		専門用語を避け、保護者が安心して相談できるよう丁寧な説明を心がけている。	
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	○		高齢者施設との交流を定期的に行っている	
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	○		手洗い・消毒・換気などの基本対策を徹底し、感染症流行時にはマニュアルに沿って迅速に対応している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	○		災害発生時に備え、連絡網や緊急連絡先の確認を定期的に行っている。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認しているか。	○		必要に応じてマニュアルを作成し、誰が対応しても適切な支援ができるようにしている。	
	49	食物アレルギーのあるこどもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	○		食物アレルギーの状況に変化があれば、保護者から速やかに情報を共有してもらうようお願いしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	○		室内外の安全点検を定期的を実施し、危険箇所があればすぐに改善している。	
	51	こどもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	○		災害時の連絡方法、避難場所、引き渡し手順を文書で案内し、家庭と事業所が同じ行動基準を持てるようにしている。	
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	○		定期的にヒヤリハット事例を振り返り、職員全体で安全意識を高める機会を設けている。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	○		日々の支援を振り返り、こどもへの関わり方について職員同士で確認し合っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、こどもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	○		研修を通して、適切な声かけや危険回避の方法を学び、身体拘束を最小限に抑える取り組みを行っている。		